

第75回富士開拓農業協同組合 通常総会を開催!!

6月23日(金)、当農協大会議室にて第75回通常総会を開催しました。

丸山組合長の挨拶に続き、御来賓の富士宮市長 須藤秀忠様、静岡県富士農林事務所長 西室康二様、静岡県開拓農業協同組合連合会代表理事会長 八代正幸様から御祝辞をいただきました。全ての議案は、原案通り可決致しました。その後の理事会で、組合長に丸山富男、専務に岡島富士雄を選任しました。また監事会では、代表監事に倉田隆夫を選任しました。



丸山富男代表理事組合長挨拶

記念品



来賓祝辞 右から須藤市長・西室所長・八代会長

役員の任期を終えて
長い間、ご尽力いただきありがとうございました。

金田 強 さん



(2017年6月～2023年6月2期在任)

「今回は牛乳のたんぱく質が、温度で構造変化する話をします」

物質構造科学研究所(KEK)の高木秀彰さんらのチームは、牛乳の主成分であるカゼインというたんぱく質が、直径100nmの粒になっている。牛乳が白いのは、脂肪球やそれらの粒が光を乱反射するためだ。

10～40度の間で温度を変えながら粒の構造を調べた。すると温度を上げると粒の中の水を含む部分が膨らみ、カルシウムとリンが取り込まれて、リン酸カルシウムの微粒子が増加。なんと、温度を下げる元に戻った。粒の大きさは一定だったという。

「KEKは、母乳の体温がベストですね。今後は、乳製品の製造工程の改善に生かせる」と期待されるそうです。素粒工学の先生方は、こんな事もしているんですね。

単身の私は、朝の熱いホットミルクをふうふうしながら飲むのも美味しいが、これからは温かい牛乳を飲むようにしよう。そして、ヨーグルトは30度で食べる。(乳酸菌が元気になる)白湯は50度で飲む。(胃や腸のトリップチャネルが活性化)せめて、温度にこだわっていいこうと思うこの頃です。

伊藤 広敬 さん



(2020年6月～2023年6月1期在任)

今期理事を務めさせて頂き、農協運営に関して分からないことが多かったが、皆様に叱咤激励を頂きながらなんとか任期を終えることとなりました。

初年からコロナ禍により世の中を取り巻く環境が大きく変化し、さらにウクライナ戦争の影響もあって酪農家にとっても過去に類を見ない程非常に厳しい状況になりました。

また、コロナ感染症対策を敷く中で、農家や農協職員が集って意見交換する場の制限や農協窓口でのやり取りも簡素で最低限のものとなり、農協と農家との間に距離感が生まれてしまった様に感じました。コロナ感染症も5類に移行したこと少しづつ以前の様な環境を取り戻し、農協に農家が気軽に足を運んで農協職員や農家同士で情報を共有したり、他愛もない様な話をしながら繋がりを深めていき、関係者一丸となってこの難局を乗り越えていければと思います。

理事としては至らず反省する点ばかりでしたが、理事会に参加し農協運営や方針を考える事で以前より農協のあり方について深く考える様になりました。今後も一組合員としてより良い農協運営に携わっていかれると思います。

感謝



組合長通信

乳価・スモール価格について



8月から乳価が10円値上げになります。牛乳の消費量も一旦減少するかもしれませんが、いずれ回復します。

食料安法案によって日本の重要食料・牛乳生産重視の姿勢が強まります。

富裕層が増えつつあるアジアに向けてLL牛乳・和牛・牛肉生産の輸出拡大が期待されています。スモール価格も今年が底値でしょう。

営農指導・生乳販売について

営農指導とは、補助事業申請・情報提供・困りごと相談・市、県単独の助成事業依頼・農水省への要請・その他多岐に渡り酪農家支援を行う事業です。それら69項目以上の、酪農営農指導経費を賄うための、乳量に応じた賦課金と生乳精算事務手数料を、1戸1500円/月にしたいと思っています。

生乳取引については、今年初めより国際弁護士法人事務所に依頼して検討を重ねてきました。6名の弁護士団を組み、関係機関と打ち合わせをしてきました。

賦課金徴収方法は総会により可決されました。事業収益が計画黒字以上になった場合乳量に応じて還付します。

2023年度重点目標

- ① クラーステーション排水処理施設の更新
- ② 搾乳施設の排水基準に適合した浄化槽の廉価施設の研究
- ③ きめ細かな営農に関する経営相談
- ④ 乳価値上げでも賄いきれない経費について助成金の獲得活動

富士宮市単独の粗飼料対策補助金が昨年の2千万円から今年は7千万円に増額されます。市単独補助金として富士宮市は飛び抜けています。

削蹄師さんから見た牛の健康

牛の蹄の健康を目指し

牛の蹄は第二の心臓と言われています。人間で言えば、ふくらはぎです。立ったり寝たり歩いたり、運動すると、ポンプ効果で血液がよく回ります。ところが蹄が延びて変形したり傾いたりすると、牛は姿勢を正しく保つことが困難になり、ストレスを溜めていきます。餌食いが悪くなり、乳量が落ち、繁殖障害が起きやすくなります。定期的な削蹄をする事で牛の健康を保つ事が酪農経営において大切な事の一つになります。蹄は年7〜8cm延びます。年2〜3回の削蹄が理想です。削蹄は牛にとって大切な事です。削蹄梓に入られて保定される事は牛にとってはストレスになります。なので、小池削蹄所は短時間で削蹄作業を終えて牛を早く開放させてあげる事を心がけています。現在3名の削蹄師で和気あいあいと作業を（あまり喋りませんが）しています。

削蹄師から見て牛は滑るのが一番怖い

牛の健康にとって大事な事は、良い餌・良い水・新鮮な空気・快適な寝床・そして滑らない通路だと思っています。作業中に牛を移動させる時、なかなか動かない牛がいます。単純に頑固な牛もいますが、以前滑って転んだ経験があって、怖くて動けない場合が多いと思います。延びて変形した蹄とツルツルの通路は牛にとって最悪な状況です。

終わりに

削蹄師は、危険・汚い・キツイ業種なのでなかなか後継者が育ちませんが、奥深く何年やっても飽きない、やりがいのある仕事だと思っています。牛の蹄の健康を目指してこれからも頑張りますので、他の削蹄師さん共々これからも宜しくお願い致します。



小池削蹄所 小池 猛

職員紹介

西富士用水

遠藤 優 (ゆう)



2015年に入組し今年で9年目になります。現在は西富士用水係として上は富士丘、下は篠坂、粟倉地域の水道管理に努めております。範囲が広く大変ではありますが、水道という必要不可欠なライフラインを支えるという役割に責任を持って取り組んでおります。

私事では昨年6月に長男が生まれました。成長の早さに驚くばかりで、喜ばしいですが少し寂しさも感じます。子どもの成長を見守りながら、いつか趣味のテニスを親子で楽しむことが小さな夢です。

農家さんからのお知らせ

※不用品等ありましたらご連絡下さい。
次回号に掲載致します。

お問い合わせは、総務課までご連絡下さい。(054-0300)

※価格・配送等は直接農家さんとの交渉になります。

